
蒼の世界

恋華 三

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蒼の世界

【Nコード】

N4478P

【作者名】

恋華 ミ

【あらすじ】

私の闇。

見てみますか？

(前書き)

病んでいます

苦手な人、回れ右!!

私が、何かしたとしても何も変わらない。
考えてみたら寂しいし、怖いことだ。
私がいなくても、世界は回っている。
世界は言っている。

『才前ナンテイライナイ』

そんなこと言われたら、家どころか部屋も出れない。
世界からの死刑宣告。
怖い、怖い。

私を誰か、誰か助けて……。
誰も気づいてくれない。

それは、私は独りだから。

私は、独りのほうが楽だと思ってた。
誰にも、頼ってないと思っていた。

それは、違った。

頼って、頼って、頼りまくっていた。
もう一人では、立てなくなってた。

誰かの助けがなければ、支えがなければ立てない。
立てなければ、歩きも出来ない。

叫んでいる。嘆いている。

その声は、聞こえない。

そんな、私にも光が見えた。

“友”という存在。

こんな、私に手を伸ばしてくれた。
笑ってくれるし、泣いてもくれる。
それが、私は嬉しくてたまらない。
だけど、それは長くは続かなかった。

裏切られた。

手のひらを返された。

それは、光ではなく闇であった。

どうしても、一緒にいた日々を思い出してしまつ。

そんな思い出がある分、傷が深かった。

絆創膏を無理矢理、剥がされた気分。

痛くて痛くてたまらなかつた。

毎日、涙ばかり流した。

思い出は流れない。

忘れたいことは、何故忘れられない。

涙が枯れきつた頃、思い出す。

あの、死刑宣告。

『才前ナンテイラナイ』

あつ、そうだ。

あの時、私は死んだんだ。

今は、この世を彷徨っている。

誰にも気づかれない、空気となって。

やっぱ、独りのほうが楽でいいや・・・。

(後書き)

一回は、病んでる系(?) 書きたくて書いてしまいました。

すみません。

私の闇を表現してみました。

最後になりました。

読んでくださって、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4478p/>

蒼の世界

2010年12月18日21時57分発行